



# かほく防災記者 1・2期生レポート

仙台一中3年 梅津遼太郎さん

## 助け合いの大切さ実感



梅津遼太郎さん

父、弟と8月13日、仙台市若林区の震災遺構荒浜小を訪問した。改めて東日本大震災による被害などを、自分の目で確かめたいと考えたからだ。駐車場には他県ナンバーの車が目立ち、思っていた以上に見学者が多かった。

津波被害を受けた校舎とその周辺を見て回った。1階の天井に挟まった空き缶や、天井に付いたシミが津波の高さを物語っていた。折れ曲がったベランダの鉄柵や壊れたコンクリートの壁などの被害状況から、校舎を襲った津波の力の大きさを想像した。

荒浜小は震災発生当時、児童91人が通っていた。学校のある荒浜地区は震災前、約800世帯、2200人の人々が暮ら



校舎2階ベランダの鉄柵は、津波の力で折れ曲がっていた＝8月13日、仙台市若林区

しており、とても活気にあふれていたという。荒浜地区の震災前と震災後の写真を見比べて、そこに写っている光景の違いに、当たり前前の日常が津波によっていかに残酷に奪われたかを知った。

校舎の屋上から、現在の荒浜地区を見渡した。海岸沿いにわずかに松の木が残っているだけで、ほとんど何も無い土地が広がっていた。津波に襲われたことで、地域一帯の家と活気が失われてしまったことを実感した。

しかし、このような甚大な津波被害を受けても、荒浜小の校舎では一人も犠牲者を出さなかった。その理由の一つに、避難した地域の人の団結力がある。

実際に震災当時の荒浜小関係者から「互いの身を寄せ合って寒さをしのいだ」という体験談を聞くことができた。また児童たちは、先生たちがはがした教室のカーテンにくるまり、暖を取って過ごしたらしい。

荒浜はもともと、住民

同士の横の連携が強い地域だったという。普段から、地域の人のつながりを大切にすることで、災害発生時に助け合い、生活できる力が身に付くことも知った。

自然災害はいつ発生するか分からない。常に災害に対する備えをしておく必要がある。高校受験が終わったら防災士の資格にチャレンジし、家族や地域の防災活動に貢献したい。

◇ 本年度3期生が研修をしているかほく防災記者(河北新報社主催)の1期生、2期生が、災害や防災・減災に関するテーマを選び、取材、執筆した原稿を随時紹介します。

かほピョンプレス読者のみなさんへ

# 次はニュース検定に挑戦!

ニュース時事能力検定試験 検NEWS

**5級問題に挑戦!** (2022年度検定問題より出題)

電車やバスなどの乗り物で、ベビーカーを使う人の優先スペースを示すマークはどれですか。正しいものを①～④から一つ選びなさい。

答え... ①

もっと詳しく知りたい方には基礎編(3・4級対応)

定価:1,320円(本体1,200円)

**N検**を受けるといいこと

- 世の中で起きていることがわかるようになる!
- 文章を読み解く力がつく!
- 中学入試で増えている時事問題に強くなる!

5級の検定問題の約6割は...

公式テキスト&問題集「時事力」入門編(5級対応)

から出題されます!

定価:990円(本体900円)

次回検定のお知らせ

2023年度 第2回 11月12日(日) マークシート方式

仙台会場 フォレスト仙台 仙台市青葉区柏木1-2-45

申込締め切り日 公式サイトから9月22日(金)

お問い合わせは... 受検サポートセンター TEL.03-5209-0553

検定のお申し込みは公式サイトから ニュース検定 検索

